

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校を目指して

自分の一歩 みんなの一歩

校長室だより II

朝霞市立朝霞第一小学校

令和3年6月9日

No.21 (合同No.7)

校長 野口 邦彦

実践に使える教育心理学

「シナジー効果」「ピグマリオン効果」って、 知っていますか？



学校・学級はみんなが学ぶ場であり、人と人が関わること（社会性）を学ぶ場でもあると思います。特に、たくさんの人が集まる場である学校・学級には、私は「力学」があると思います。様々な個性をもった人達が集まることで、色々に作用し、時には化学反応を起こして、すばらしい力を発揮することもあれば、時には負の影響をもたらすこともあります。新しい学年がスタートして2か月、それぞれの学級で化学反応が起きていると思います。

さて、みなさんは「シナジー効果」「ピグマリオン効果」という言葉をご存じでしょうか。どちらも、教育心理学に出てくる言葉です。簡単に意味を説明すると

【シナジー効果】

相乗効果とも言い、ある要素が他の要素と合わせることによって、単体では得られる以上の結果をあげること。

【ピグマリオン効果】

教師が期待することで、それが子供たちに伝わり、成長につながっていくこと。

この2つは、学級経営・学年経営（もちろん学校経営にも）など、実践に使える心理学です。先程も言ったように、学年・学級が集団で過ごす場である以上、そこには必ず「力学」が生じます。その力学が正しい方向に向かうためにも、この2つの心理学は、とても大切です。特に「ピグマリオン効果」先生方が、子ども達に対してどんなイメージを持つか、どういう風になってもらいたいのか、その思いは日々の生活の中で、じわりじわりと必ず伝わっていきます。中々、うまくいかないことも、すぐに答えがでないこともたくさんありますが、先生方の「思い」や「期待」は、とても大切です。そして、それが子ども達の「育つ」にきつとつながっていくと思います。

追伸…大学時代は聞き流していた教育心理学などの学問も、実践を積み重ねてくると、使えるもの、知らず知らずに使っていたものもたくさんあります。学生時代は、中々気づかないことですが。